



以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

32

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

森林づくり、森林の恵みの利活用 先進地に聴く

「徳島県立高丸山千年の森づくり事業
～住民が中心となり、
人工林の伐採跡地にフナ林を再生～」



第3回「Club J-WESTの森」森づくりイベントでの広葉樹間伐体験
(スチールの森京都(府民の森ひよし) 2014年10月18日撮影)
村瀬 左由利氏

府内一斉森づくり活動期間
「モデルフォレスト DAY」、府内各地で開催

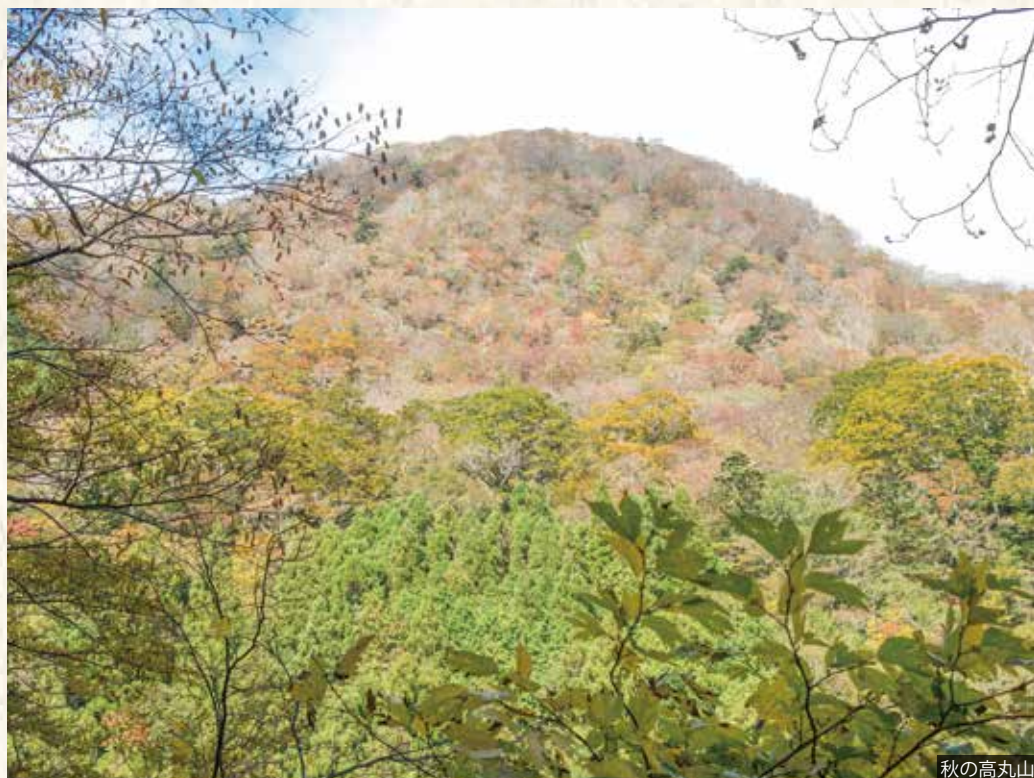
森林づくり、森林の恵みの利活用

徳島県立高丸山千年の森づくり事業

住民が中心となり、人工林の伐採跡地にブナ林を再生

上勝町は、徳島県の中部に位置する人口約1700人の町。ゴミゼロ運動や、高齢者や女性たちによる「葉っぱビジネス」などがマスコミに取り上げられ、その名が知られるところとなりました。

この上勝町での「徳島県立高丸山千年の森」づくりが、行政が主導して始めた取組から住民主導の取組に発展し、注目を集めています。



秋の高丸山

【千年の森づくり】

徳島県は、残存する自然林や劣化しつつある里山林の保護、人工林の健全化を目指し、「千年の森づくり」を進めるため、高丸山一帯116haを「千年の森」対象地に指定しました。「千年の森」は森林公園として2004年4月にオープンしました。

「千年の森」は、ブナなどを保護する保全ゾーン、人工林

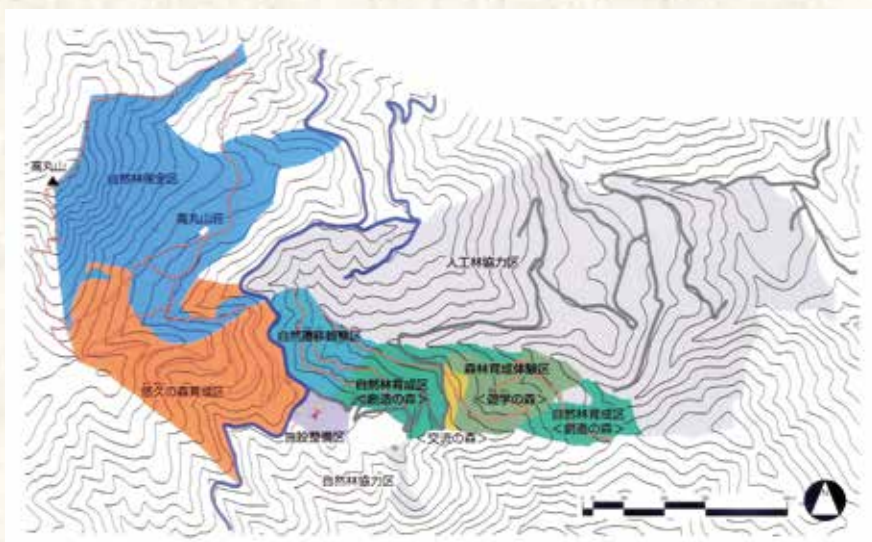
伐採跡地に自然林を再生するゾーン、森づくり団体が森づくりを行うゾーン、スギ林を大木の森に育て、林業について学ぶ人工林育成ゾーンなどに分けられ、住民や様々な関係団体が活動しています。

【専門家の協力により、ブナなどの自然林を再生】

徳島県は森林率76%、人工林率61%となっており、人

工林率は全国平均41%より高くなっています。徳島県は「とくしまビオトープ・プラン(徳島県2002)」の中で、県土全域を対象とした生態系ネットワークの再生方針を示しました。同プランの中で高丸山は、優先的に自然林を拡大していくべき地域に含まれています。

専門家の協力により、自然林再生を目指した森づくりに当たっては、植生調査を行った上で、それぞれの地形に適した樹種を植栽する、外部から苗木を持ちこまず、植栽予定地周辺に自生する樹種の苗木を植栽するといった手法が取られ、現在は32種が植栽されています(右ペー



千年の森のゾーニング

千年の森づくりをコーディネート

—かみかつ里山倶楽部—

「かみかつ里山倶楽部」は、千年の森の事業に積極的に係わることを期待して、上勝町内の12の団体が集まって結成されました。平成18年からこの参加型森づくり活動をサポートしています。地域の林業関係者とまちづくり、自然体験活動や観光を提供してきた団体で構成されています。このメンバーには千年の森事業の計画の段階から、意見交換に係わってきた方々も含まれていて、千年の森を訪れる方々のサポートをしながら様々な企画を考えていくところが特徴です。

千年の森の事業は、スギの人工林を伐採した場所に、自然林を再生して、その過程を多くのボランティアの方々に楽しんで頂くために、人工林と違ったあたらしい森の価値を関係者で共有することも提案しています。自分た

ちでやりたいことを考え、千年の森づくりの活動を通じて、様々なイベントで実施していくことはそのうちのひとつです。運営を支援するスタッフとして30人程が登録しており、得意な場面で協力をしています。

たとえば、「ままごとキッチンづくり」は、若

手の林業研究会が、地域の木材を使って材料を準備し、一般の参加者といっしょに、木工をすすめていきます。木の良さを充分に知っている林業のプロが教えてくれ



草刈の様子。植えた木がだいぶ大きくなりました。



「ままごとキッチンづくり」の様子。お子さんたちが大喜びです。

る木工は、格段に楽しいものになります。

また、地域のベテランの林業家さんの集まり「林友会」が教えてくれる、木炭の知識「炭焼き教室」は、広葉樹からつくる木炭の良さと里山の生活の知恵がぎっしり詰まった教室です。

高丸山ガイドは、登山を楽しみに来訪する皆さんへ山の文化や自然を紹介する登山ガイドです。ガイド自身も参加者の皆さんとともに山を楽しみます。森づくりのための苗木を育てた経験を解説する際は、まるでガーデニング教室のようです。

このように山から採れるさまざまな資源を利用して、交流する事業を倶楽部の参加者で考えて実施しています。それぞれの活動は、わずかですが報酬をお返しすることも含めて、できるだけ楽しく、持続できるように工夫しています。

広葉樹を植栽した場所が10年を経過し森林らしい姿になってきました。この森林に集まる人たちも年齢を重ねているので、活動もバージョンアップさせることが大切と感じています。

(かみかつ里山倶楽部 事務局長 飯山 直樹)

ジ下表参照)。

また種子採取や苗木作りは、地域住民の有志により形成された種苗生産組合により行われており、これまでスギの育苗しか経験のなかった住民が広葉樹の苗木を育てられるようになり、新たな収入に繋がっています。

【住民の合意形成による森づくり】

住民の合意形成の仕掛けをしてきた一人が、鎌田磨人さん(徳島大学教授)でした。鎌田さんは、地域住民が行う森づくり活動を生態学の専門家の立場から応援すると共に、地域デザイン・協働の専門家らと共に、地域住民や、様々な関係者による千年の森づくりに関わるワークショップを開催して来られました。

当初は徳島県の事業として始まった千年の森づくりでしたが、ワークショップで出された提案は千年の森の事業域内に止まらず、これまで町の中で取り組まれてきた様々な活動と連動するものでした。行政の枠組みの中で納まらず、様々な業務・活動を行う団体により「かみかつ里山倶楽部」

が誕生し、平成18年から指定管理者として「高丸山千年の森」を運営することとなりました。

地元住民、関係団体間の合意形成を丁寧に図りながら、森づくり、参加交流、環境教育を進めるかみかつ里山倶楽部は、平成26年度ふれあいの森林づくりで国土緑化推進機構会長賞を受賞しました。住民主体で進める事業の今後の行方が期待されます。

詳しくはHP [高丸山千年の森](#)

検索

植栽樹種

- ①チドリノキ ②ホオノキ ③カツラ ④トチノキ
- ⑤ケヤキ ⑥イタヤカエデ ⑦コハウチワカエデ
- ⑧ヒナウチワカエデ ⑨シナノキ ⑩アカシデ ⑪イヌシデ
- ⑫オオモミジ ⑬ヤマボウシ ⑭ミズメ ⑮ヒメシャラ
- ⑯ブナ ⑰ハリギリ ⑱ヤマザクラ ⑲キハダ ⑳ツガ
- ㉑シキミ ㉒モミ ㉓アズキナシ ㉔ミズキ ㉕サワシバ
- ㉖クリ ㉗クマシデ ㉘ウリハダカエデ ㉙ウリカエデ
- ㉚イヌブナ ㉛アサノハカエデ ㉜アサガラ



森林体験教室「森で遊ぼう、森で学ぼう ～衣笠山～」を開催しました

10月4日(土)京都市北区 衣笠山
((公社)国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド事業」)

森林体験教室「森で遊ぼう、森で学ぼう ～衣笠山～」を開催しました。お子さんと保護者の方々など 22 名にご参加いただきました。

前日は雨でしたが、当日は何とか天気持ち直し、時々晴れ間の見える空の下、京都森林インストラクター会の皆さんの案内で秋の衣笠山を満喫しました。

ナラ枯れやシカが下草を食べた跡、昔の地層（チャート）、リスが松ぼっくりの種子を食べた跡（エビフライ）、しいたけのほだ木、ヒノキの植林地などを見て回りました。ナツハゼの実の味見など、普段はできない体験も。特に人気があったのは、お正月に鏡餅の上に飾るウラジロ

飛ばしでした。何度もチャレンジされるお子さんとお父さんの姿もあり

葉っぱの観察



ました。

京都森林インストラクター会の皆さんは、きのこは弱った木や枯れ木などに発生して栄養豊かな土に戻してくれる、鳥やリスは

記念撮影



自分では動けない植物に代わって種を遠くに運んでくれるなど、森の生物たちの繋がりについても分かりやすく説明していただきました。

参加者の皆さんからは、「楽しかった」、「初めて知ったことがたくさんあった」等の感想をいただきました。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



リスが作った松ぼっくりのエビフライ



平成 26 年度緑化運動ポスター・ 愛鳥週間ポスターコンクール

京都モデルフォレスト協会理事長賞
受賞作品【愛鳥週間ポスター】

緑化運動ポスター・愛鳥週間ポスターコンクールを実施し、応募点数 2,830 点（緑化運動ポスター 1,341 点、愛鳥週間ポスター 1,489 点）の中から合わせて 400 点が選ばれました（最優秀賞各 2 点、優秀賞各 4 点、奨励賞各 6 点、努力賞各 10 点、佳作各 178 点）。

今号では、奨励賞のうち、愛鳥週間ポスターの当協会理事長賞受賞作品を紹介します。



京都市立修学院中学校 1 年 片山麗奈さん



宇治市立西宇治中学校 3 年 杉本希実さん

府内一斉森づくり活動期間 「モデルフォレスト DAY」 府内各地で開催

運動のすそ野拡大に向け、今年も多くの企業・団体等が参加



「ムラタの森」で行われたキックオフイベント

参加企業一覧

エスベック（株）、オムロン（株）、京セラ（株）、（株）京都銀行、京都生活協同組合、京都大学、グンゼ（株）、コカ・コーラウエスト（株）、三共精機（株）、西日本旅客鉄道株式会社、（株）島津製作所、住友生命保険相互会社、パナソニック フォト・ライティング（株）、佛教大学、（株）平和堂、（株）村田製作所、ワタキューセイモア（株）（50 音順）

※企業様以外に、森林ボランティア団体様等にも多数、ご参加ご協力いただきました。ありがとうございました。

京都モデルフォレスト運動 10 周年となる平成 28 年、京都で開催される全国育樹祭に向け、運動のすそ野をさらに拡大するため、当協会は昨年度から京都府や関係機関とともに、府内一斉森づくり活動期間「モデルフォレスト DAY」（10 月～11 月）を設定しています。

今年度は、9 月 27 日（土）に株式会社村田製作所「ムラタの森」で、社員やご家族、地元の皆さんや緑の少年団の皆さんなどが参加し、キックオフイベントを開催。期間中は府内各地で多数の企業や団体様による活発な活動が行われました。

※活動の報告は、協会ホームページでも紹介しています。



宮津ふるさとの森を育てる協議会の活動

「2014 モデルフォレスト DAY 国際シンポジウム」を開催

11 月 4 日（火）、京都市上京区で「2014 モデルフォレスト DAY 国際シンポジウム」を開催。多数の方々にご来場いただきました。

当日は、京都府山下晃正副知事がご挨拶の中で現在推進されている「森の京都」構想について触れられ、その後、ケベック州政府在日事務所ドミニク・マルコット氏による自然豊かなケベック州の紹介やラバル大学教授ナンシー・ジェリナ氏による同州の森林環境保全の取り組みについてご紹介いただきました。その後、国際モデルフォレストネットワーク事務総長ピーター・ベッソー氏が「世界のモデルフォレストと京都の取り組み」と題して講演。その中で、気候変動や生物多様性の減少などの地球規模の問題に対応するため、持続可能な森林のあり方を考える「モデルフォレスト」の手法は有効であることや、多様な利害関係者との対話を可能にする手段としてカナダで進展してきたその歴史や近年の世界での広がりなどについて、お話しいただきました。

引き続いてのパネルディスカッションでは、「京都モデルフォレスト運動のこれからの展開」と題し、上智大学大学院教授 柴田晋吾氏、当協会顧問の小澤普照氏のほか、（株）村田製作所 西村正人様や西山森林整備推進協議会 北川あかり様による京都における企業や住民、行政が一体となった取り組み事例についてご紹介いただき、今後の展開について示唆をいただきました。



シンポジウムの様子

もりもり

森守協力隊は平成 17 年に設立され、京都市京北森林公園を拠点に、間伐等の森林整備、炭焼き、親子自然環境教室を開催されている当協会の団体会員。平成 25 年度からは、当協会が地域協議会を務める林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策」事業の交付金も活用。

事務局の宮西真也さんに、今、力を入れておられる3つの取組について、参加者集めや資金確保の工夫、子どもたちの環境学習への思いを交えてお話しいただきました。



森のようちえんプレ活動
京都市京北森林公園での椎茸狩りの様子



宮西真也さん

行事の参加者増や炭焼きで 活動資金調達を目指す

～ 10 年間の活動を礎に 「森のようちえん」 もスタート～

●京都市京北森林公園の運営

宮西さんは、公園の指定管理者である京北森林組合に所属する形で、京北森林公園の運営に関わっています。公園のバーベキュー利用者を増やすために、お肉屋さんの店頭で公園のリーフレットを配布してもらったり、ホームページのリニューアルやフェイスブックの立ち上げ等の工夫を重ね、来園者は少しずつ増えてきました。

従来から行っていたキノコ狩り、椎茸の菌打ち体験に加え、林野庁の交付金を活用して木工教室を主催する等、来園者を増やすための工夫を重ねています。

将来的には公園内のスギ・ヒノキ林の一部をクヌギやコナラの雑木林にし、炭焼きなどの材料を公園の中で調達できるようにするほか、ツリーハウスの設置も構想しています。



ウッディ京北で販売されている、森守協力隊が焼いた竹炭

●炭焼き

炭焼きは公園内の炭焼き窯で行っており、重要な収入源になっています。炭の材料となる間伐材は、京北に山を持つ山主や会員等から提供してもらっています。京北にはスギ・ヒノキ林が多いため、主にバーベキュー用にスギ・ヒノキの炭を焼き、京北森林公園や宇津峡公園、道の駅ウッディー京北で販売。700℃以上の高温で焼く炭は質が良く、地元の方も買いに来れるほか、炭焼き職人が高齢化して炭の確保が困難になる中、

府内のソーセージ屋さんなどからも引き合いがあります。

●森のようちえん

「森のようちえん」とは、自然の中で幼児教育を行う運動や団体、また自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育、自主的に遊び学ぶ体験型の保育活動のことです。

京北の豊かな自然環境のもとで、子どもたちに多感な幼児期を過ごして欲しいとの思いのもと、平成 27 年 4 月の開園を目指し、今年はプレ活動として、椎茸狩り、田植え、薪を使ったご飯炊き、野菜の収穫、稲刈り、脱穀といった作業をお子さんたちに経験してもらいました。

行事には京北からの参加者は少なく、街中からの参加者が多いそうです。宮西さんは「緑豊かな京北で育っていると、自然環境に関心を持つことがないのではないかと。ただし森のことをよく知っているわけではないので、京北の子どもたちに参加してもらい、身近な森の素晴らしさを知って欲しい」と話します。

宮西さんご自身も、中学 1 年生の時に家族で右京区太秦から京北に移住し、高校生まで京北で過ごしました。その経験を今後の事業に活かしたいとの意気込みを感じました。

宮西さんたちの努力が実を結び、森守協力隊の取組への参加者や収入が増え、未来を担う子どもたちのための取組や、人工林や雑木林の整備、資源利用の取組が続いていくことを期待します。

(チーム以森伝心 西本 雅則)

詳しくは HP

森守協力隊

検索

チーム以森伝心 新メンバー自己紹介

チーム以森伝心は、京都モデルフォレスト運動を推進し、京都の森林づくり活動を広げていくための、本誌作成ボランティアチームです。この度、新しいメンバーが2名加わりました。ますますパワーアップした紙面にご期待ください！

飛川 祐人 [会社員]

大学ではビジネスと英語を学び、大学院でジャーナリズムを専攻すべくオーストラリアへ。そして気がつけばいつの間にもやらニュージージーランドにたどり着いておりました。実家が比較的緑の豊かな地域にあることなどもあり、自然に囲まれて育った覚えはあるのですが、森林や林業に個人として関わらせていただくのは今回が初めてとなります。

ビジネス街を出るとすぐに誰でも気軽に利用できるハイキング・コースやきれいに整備された公園があり、都市部から少し車を走らせれば羊、牛、馬がわらわらと姿を現すニュージージーランド。国として観光産業に力を入れており、その中でも豊かな自然を前面に押し出しているだけあって山などの管理も行き届いているように思えます。自然資源が生活の一部として受け入れられているさまや、観光資源としてどのような役割を果たしているのかなど、現地で実際に生活する在留邦人の視点から少しでもお伝えてできれば幸いです。



写真右が本人



ニュージージーランド・ワンガレイにある A H Reed Memorial Park

山本 忍 [会社経営 (元記者)]

この度、京都モデルフォレスト協会友の会会員になると共に、チーム以森伝心のメンバーになりました。

約6年前、山に放置されている間伐材や原木の端材を有効活用した割箸の流通事業を思いつき、大阪の船場^{せんば}で、ジャパンフォーレスト株式会社を設立しました。

ボランティアに応募したのは、事業として立ち上げた頃に会った京都女子大学の高桑進教授（現名誉教授・杉の研究者）の協力もあり、大阪より京都での活動がメインになっているためです。国産の割箸は使うほどエコだということを理解してもらい、いかに継続的な事業にするか？ 試行錯誤の末に考えついた「箸袋の広告活用」も、いち早く採用してもらったのが京女の学生食堂。4年前の統一地方選挙や3R活動の啓発用に使ってもらったのも京都です。今、「京都に割箸工場を」という話も出ており、箸袋に日本の伝統文化を紹介する等のアイデアも考えています。売上の1%は国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付し、「森林の元気を応援できる」ビジネスモデルで地域活性化を目指しています。

以森伝心では、これまでの取材・編集の経験やビジネス感覚を活かし、多くの人に興味を持ってもらえる誌面を作りたいと考えています。



ジャパンフォーレスト株式会社に販売している割箸

事務局からのお知らせ

活動報告

● 10月18日(土) 第3回「Club J-WESTの森 森づくりイベント」(スチールの森京都(南丹市))

好天に恵まれ、多数の皆様にお越しいただきました。間伐や薪割体験のほか、ツリークライミングやバウムクーヘンづくりでは子どもたちの笑顔もいっぱい。森の中でのひとときをお楽しみいただきました。



● 10月18日(土) 第15回竹の環プロジェクト「竹林保全ボランティア」(京都大学桂キャンパス)

主催の京都大学・住友生命保険相互会社・京都府・当協会のメンバーとともに一般参加者を含めた76名が参加し、竹の間伐と竹の工作を実施。汗ばむくらいの晴天の秋空の下、心地よい汗を流しました。



今後の予定

1月末～2月上旬 ●森林・林業・木材産業京都会議

ご協力をお願い

■ 当協会へのご寄付、緑の募金へのご協力を、よろしくお願いいたします。

● 当協会へのご寄付

当協会へのご寄付は、寄附金控除等の税制上の優遇措置の対象となります。

銀行振込

- 銀 行：京都銀行
- 支 店：府庁出張所
- 種 類：普通 3154274
- 名 義：公益社団法人
京都モデルフォレスト協会
理事長 柏原 康夫



● ソフトバンク「かざして募金」緑の募金

ソフトバンクのスマートフォンをご利用の皆様には、アプリをインストールいただき、下の「まゆまる」の画像に「かざす」だけで、当協会の「緑の募金」にご寄付いただけます。



ダウンロードはこちら

- ①「かざして募金」アプリをダウンロード
- ②アプリを起動
- ③画像にかざして、画面をタッチするだけ



iOS アプリ



アンドロイドアプリ

● クレジットカードによるご寄付

ソフトバンク以外の方はこちらからクレジットカードによりご寄付いただけます。



■ 第40回全国育樹祭「大会テーマ」「シンボルマーク」の作品を募集しています。

平成27年2月13日(金)まで。詳しくは京都府HPをご覧ください。

<http://www.pref.kyoto.jp/modelforest/news/boshu.html>

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL & FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> facebook <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2014年12月発行

デザイン：自然堂(じねんどう)株式会社